

3. 流域の社会状況

3-1. 土地利用

流域の土地利用は、山林が全体の約 59%を占め、水田や畑・果樹園等の農地が約 31%、宅地等市街地が約 10%の割合となっている。

流域内の開発は熊本市及び隣接部を中心とした地域で著しく、これに伴う人口の集中が都市開発に大きく影響して、宅地は熊本市を中心に郊外に広がる傾向にある。

表 3-1 土地利用の現況

土地利用形態	市街地	農地	山地等	総面積
面積	40.2km ²	257.2km ²	698.6km ²	1,100km ²
[総面積に占める割合]	[10%]	[31%]	[59%]	[100%]

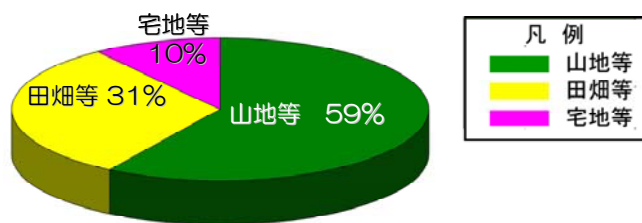


図 3-1 緑川流域の土地利用面積

(出典:国土数値地図 H9 土地利用メッシュデータ)

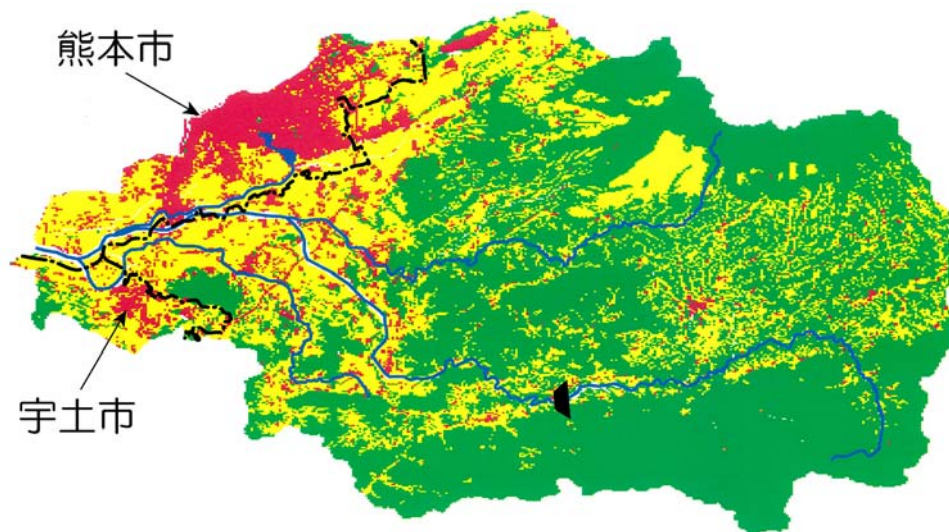


図 3-2 緑川流域における土地利用図

(出典:国土数値地図 H9 土地利用メッシュデータ)

※国土数値地図において、田・その他の農用地・ゴルフ場を農地(黄色)として、建物用地・幹線交通用地を市街地(赤色)として、荒地・その他の用地・河川地及び湖沼・海浜・海水域を山地等(緑色)として取り扱う。

3-2. 人口

流域の関係自治体は、熊本市や宇土市をはじめ4市10町1村から成り、平成7年現在で流域内人口は約52万人、氾濫防御区域内人口は約17万人となっている。

市町村別に見ると、熊本市及び益城町の人口増加が著しい。

表3-2 流域内人口の推移

年次区分	昭和45年 (人)	昭和50年 (人)	昭和55年 (人)	昭和60年 (人)	平成2年 (人)	平成7年 (人)	平成12年 (人)	平成15年 (人)	平成17年 (人)
流域内	*399,715	418,830	441,903	476,870	493,864	517,189	—	—	—
想定氾濫区域内	*99,300	140,808	145,245	186,300	184,491	170,136	—	—	—
関連市町村	689,458	746,717	802,570	844,092	872,553	906,711	925,922	935,765	968,220
熊本県	1,700,229	1,715,273	1,790,327	1,837,747	1,840,326	1,859,793	1,859,344	1,854,792	1,842,233

注) * は昭和43年の人口

(出典) 流域内人口、想定氾濫区域内人口…河川現況調査
県人口…県統計年鑑

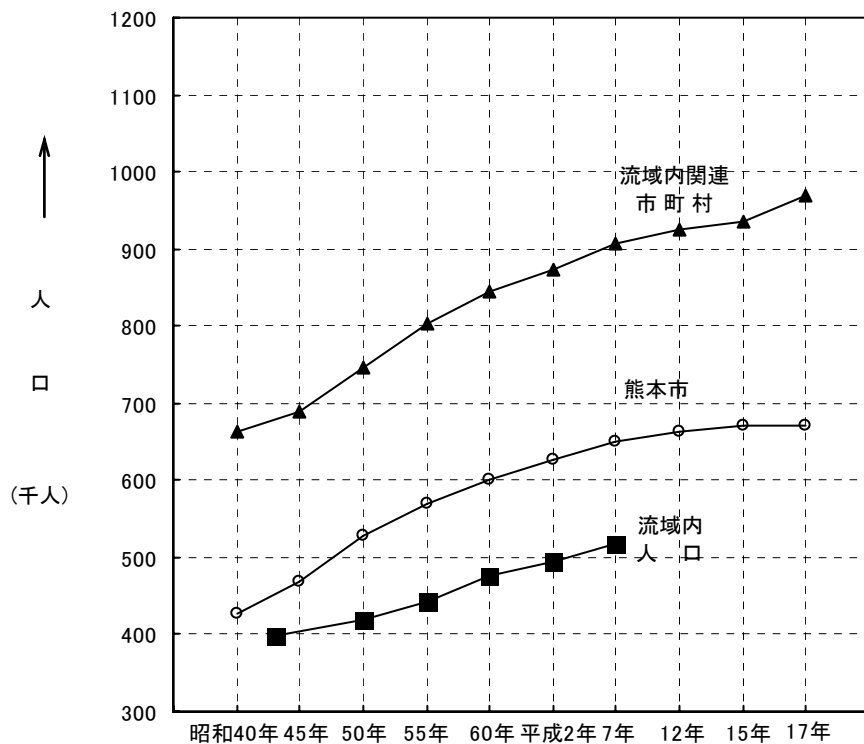


図3-3 流域内関連市町村及び流域人口の推移

表3-3

流域関連人口の推移

項目 市町村名	流域関連人口 (人)										
	S40	S45	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H15	H17	
熊本市 ^{注1)}	426,640	468,117	528,086	568,820	601,367	626,727	650,341	662,012	670,003	669,603	
宇土市	31,829	31,327	31,564	32,954	33,575	33,390	35,010	37,255	38,178	38,023	
八代市 ^{注2)} (旧八代郡泉村)	6,021	4,904	4,200	3,803	3,466	3,187	2,952	2,775	2,692	—	
宇城市 ^{注3)}	—	—	—	—	—	—	—	—	—	63,089	
下益城郡	城南町	14,551	13,981	13,864	14,922	15,816	16,432	18,781	19,677	19,885	19,641
	富合町	8,967	8,633	8,352	8,492	8,486	8,305	8,152	7,892	7,764	7,962
	松橋町 ^{注4)}	17,335	17,356	18,360	19,492	21,029	22,311	23,867	25,010	25,166	—
	豊野町 ^{注4)}	6,288	5,653	5,608	5,629	5,524	5,356	5,254	5,041	4,925	—
	中央町 ^{注5)}	6,700	5,703	5,157	5,384	5,626	5,543	5,386	5,206	5,120	—
	砥用町 ^{注5)}	12,402	10,876	9,669	9,343	9,357	8,679	8,208	7,763	7,409	—
	美里町 ^{注5)}	—	—	—	—	—	—	—	—	—	12,254
菊池郡	大津町	20,054	18,322	18,086	19,894	22,008	23,744	26,376	28,021	28,673	29,107
	菊陽町	10,570	10,881	13,138	20,152	22,585	24,154	26,273	28,360	29,627	32,434
阿蘇郡	蘇陽町 ^{注6)}	8,113	6,693	6,057	5,858	5,600	5,260	4,850	4,668	4,506	—
	西原村	5,699	5,132	4,813	4,824	4,921	5,024	5,144	5,728	6,008	6,352
上益城郡	御船町	19,081	17,716	16,698	17,536	17,979	17,952	18,438	18,532	18,282	18,116
	嘉島町	8,171	7,712	7,470	7,731	7,434	7,295	7,654	8,145	8,265	8,492
	益城町	18,757	18,918	21,031	24,269	26,773	28,492	30,757	32,160	32,600	32,782
	甲佐町	14,975	13,620	13,160	12,989	12,864	12,459	12,372	12,012	11,720	11,604
	矢部町 ^{注6)}	21,828	18,861	17,012	16,168	15,605	14,374	13,407	12,386	11,820	—
	清和村 ^{注6)}	6,213	5,053	4,392	4,310	4,077	3,869	3,489	3,279	3,122	—
	山都町 ^{注6)}	—	—	—	—	—	—	—	—	—	18,761
合計	664,194	689,458	746,717	802,570	844,092	872,553	906,711	925,922	935,765	968,220	
全県	1,770,736	1,700,229	1,715,273	1,790,327	1,837,747	1,840,326	1,859,793	1,859,344	1,854,792	1,842,233	
対全県比(%)	38	41	44	45	46	47	49	50	50	53	

注1) 熊本市の人口には、天明町、飽田町の人口を含む(平成3年2月編入)

出典：熊本県統計年鑑

注2) 八代市については、旧八代郡泉村の値(平成17年8月に八代市に合併)

注3) 宇城市については、松橋町、豊野町及び流域に関連しない小川町、三角町、不知火町も含む

注4) 松橋町、豊野町は平成17年1月宇城市に合併

注5) 中央町、砥用町は平成16年11月美里町として合併

注6) 矢部町、清和村、蘇陽町は平成17年2月山都町として合併

3-3. 産業経済

流域内の総資産額は平成7年時点で約5兆7,400億円で、その半分は家屋資産が占めている。

上流部は、森林資源が豊富に存在し、林業が盛んな他、準高冷地の冷涼な気候と清流が育む農産物は、全国的に有名な矢部茶をはじめ、トマト、キュウリ等の高原野菜、ゆずや干し柿の加工品などが特産品として有名である。

上・中流域ではアユ・コイ・ウナギ等を中心とする内水面漁業が行われており、甲佐町のアユのやな場は6月から10月まで味覚を楽しむ人で賑わっている。また、甲佐町、城南町のメロンは贈答用として好まれており、他にもイチゴ、なし、巨峰などが特産品となっている。

下流部の広大な熊本平野は熊本県有数の穀倉地帯となっており、特にナスの収穫量は熊本県内（全国第2位）の60%を流域内で占めている。また、中枢都市の熊本市では、商業、サービス業、公務のウエイトが高く、商業都市、官庁都市的な性格が強いが、流域内の製造業出荷額を見ると、熊本市の出荷額が大部分を占め、電気機器、食料品の出荷が多くなっている。

更に、流域内には、通潤橋をはじめとする石橋が数多く存在するなど、豊かな観光資源にも恵まれている。

表 3-4 流域内資産額 (単位：億円)

家屋資産額	家財資産額	事業所資産額	農漁家資産額	合計
28,988 (50.5%)	9,590 (16.7%)	18,276 (31.8%)	558 (1.0%)	57,411 (100.0%)

注) () 書きは合計に対する比率

(出典：河川現況調査[基準年：平成7年])

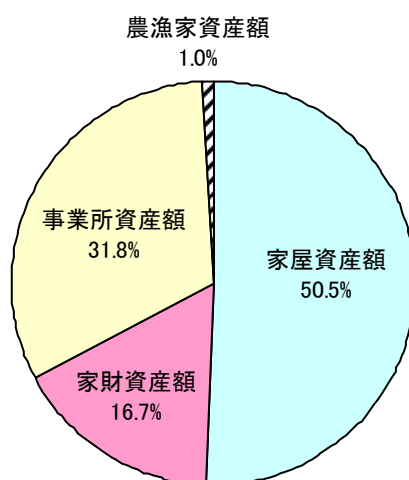


図 3-4 流域内資産の構成

表 3-5

就業者の産業構成

項目	緑川流域		熊本市		宇土市	
	就業者数(人)	割合(%)	就業者数(人)	割合(%)	就業者数(人)	割合(%)
第1次産業	19,932	8.0	10,719	3.5	2,198	12.2
第2次産業	57,163	23.0	52,315	17.0	4,691	26.0
第3次産業	171,299	69.0	243,968	79.5	11,183	61.9

(出典) 緑川流域 … 河川現況調査(基準年:平成7年)

熊本市・宇土市 … 平成18年度 熊本県統計年鑑(基準年:平成17年)

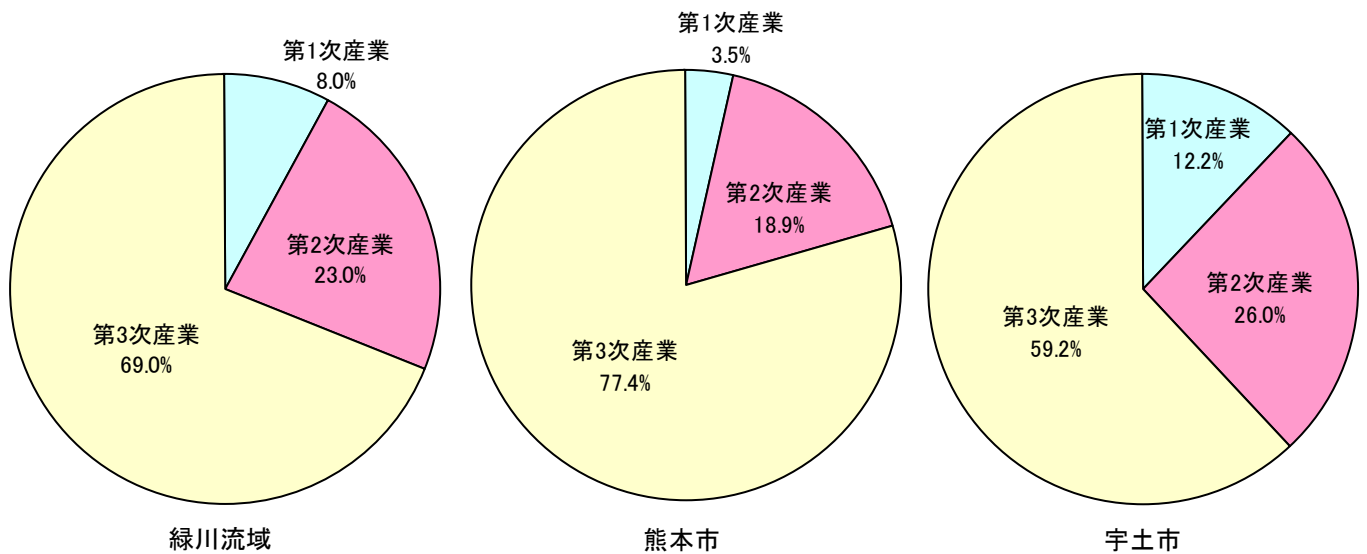


図 3-5 産業構成図

3-4. 交通

流域の西側を通過する JR 鹿児島本線は九州の西側を南北に結ぶ主要幹線で、九州地方における大量輸送に大きな役割を果たしている。また、JR 鹿児島本線に隣接して九州新幹線が開通する予定となっており、九州の経済社会活動の活性化が期待されている。

一方、道路については、主要幹線である国道 3 号線が JR 鹿児島本線に沿って南下し、九州西側の主要都市を結ぶ大動脈となっている。その他、三角、天草に連なる国道 57 号、緑川沿いに走り、宮崎県に連なる国道 218 号、及び 445 号がある。さらに鹿児島まで開通した九州縦貫自動車道路は宮崎、鹿児島両県の内陸部を結ぶ大動脈の役割を果たしている。

熊本県のほぼ中央に位置する阿蘇くまもと空港は、九州縦貫自動車道、国道 3 号、国道 57 号、218 号線等の幹線広域交通系統が集中する交通の要衝であり、また、今後の国際交流の拠点として地域の発展に重要な役割を担っている。

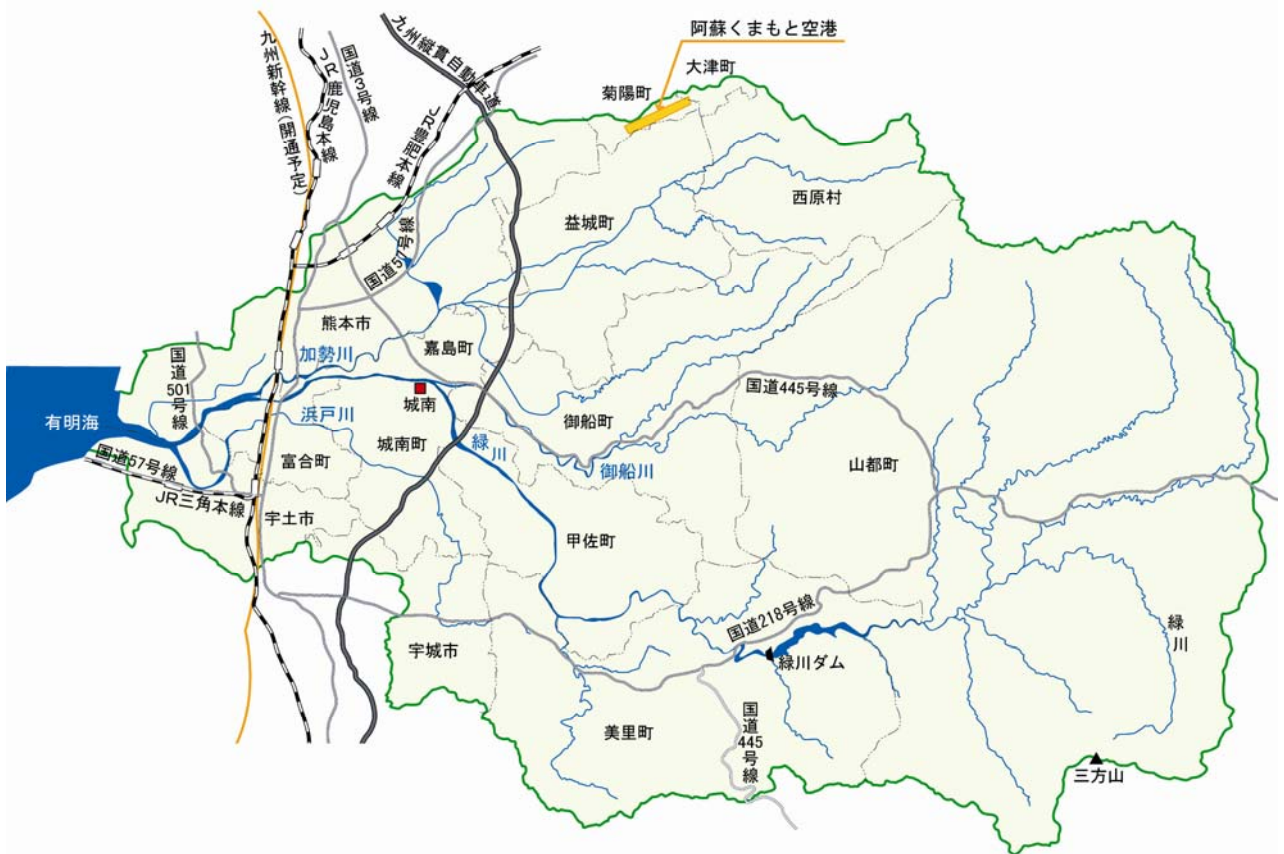


図 3-6 緑川流域における交通体系